

令和5年度

群馬県公立高等学校

入学者選抜学力検査問題

国語

(後期選抜)

— 注 意 事 項 —

- 1 「始めなさい。」の指示があるまで、問題用紙を開かないこと。
- 2 解答は、全て、解答用紙に記入すること。
- 3 「やめなさい。」の指示があったら、直ちに筆記用具を置き、問題用紙と解答用紙の両方を机の上に置くこと。
- 4 問題は、1ページから10ページまであります。
- 5 解答用紙の、の欄には何も書かないこと。

一次の文章を読んで、後の(一)～(五)の問いに答えなさい。

著作権の関係により本文は省略します。

(入倉隆『奇想天外な目と光のはなし』による。)

(一) 文中□に共通して当てはまる語として最も適切なものを、次のア～エから選びなさい。

ア しかし イ ところで ウ 並びに エ 例えば

(二) 文中A——「目は口ほどに物をいう」や「目は心の鏡」など、感情が目に表れやすいことを示す慣用句やことわざはたくさんあります」とありますが、次のア～エのうち、感情が目に表れていることを示している慣用句やことわざの例として適切なものを、全て選びなさい。

ア 目が泳ぐ イ 目を通す
ウ 目の色を変える エ 目から鼻へ抜ける

(三) 文中B——「まばたきの仕方や回数なども、コミュニケーションにおいて大切な役割を果たしていることが分かっています」とありますが、コミュニケーションにおける役割として、まばたきにはどのような働きがあると筆者は述べていますか。本文から十字以内で抜き出して書きなさい。

(四) 文中C——「人間以外でも白目のある動物は多くいますが、外からは白目がほとんど見えません」とありますが、外からの白目の見え方について、人間の目が他の動物の目と異なっているのはどうしてだと筆者は述べていますか。他の動物の目の場合と比較して、書きなさい。

(五) 本文全体の構成や表現についての説明として最も適切なものを、次のア～エから選びなさい。

ア 人間が会話をする際の目の動きについて具体例を挙げて説明しながら、言語によるコミュニケーションの重要性を訴えている。

イ 人間の目の働きについて実際に分かっていることを紹介しながら、他の動物と異なる特徴について進化の観点から説明している。

ウ 人間の目と他の動物の目の役割について比喩を用いて分かりやすく説明し、人間の目の新たな可能性について追究しようとしている。

エ 人間の目と他の動物の目が持つ相違点についての先進的な研究を取り上げ、目の役割についての一般的な考えに疑問を投げかけている。

二次の文章を読んで、後の(一)～(四)の問いに答えなさい。

著作権の關係により本文は省略します。

著作権の関係により本文は省略します。

(一) 文中A——「生返事」の意味として最も適切なものを、次のア～エから選びなさい。

ア 気のない、いい加減な返事。 イ とっさに出た、意外な返事。
ウ 丁寧で、はっきりした返事。 エ 不安そうな、弱々しい返事。

(二) 文中B——「そうだ」とありますが、このときの「凜」の心のうちを説明したものとして最も適切なものを、次のア～エから選びなさい。
ア 自分の将来だけを考え、部員の悩みを無視していたと反省している。
イ 吉村先生に会えるのも残りわずかであるため、あせりを感じている。
ウ 部活動における自分自身の置かれた立場を、改めて捉え直している。
エ 弓への思いは皆一緒だと考えることで、前向きになろうとしている。

(三) 文中C——「答えながらはっとした」とありますが、このとき、「凜」

にとつて「吉村先生」はどのような存在からどのような存在へと変わったと考えられますか。最も適切なものを、次のア～エから選びなさい。

ア 憧れの対象という存在から今後の自分の射のお手本となるべき存在。
イ 単なる学校の先生という存在から人生の厳しさを教えてくれる存在。
ウ 弓道部のOGという存在から自分の悩みを最も理解してくれる存在。
エ 親しみやすい顧問という存在から自分の将来の見本となり得る存在。

(四) 文中I——「公務員? 公務員かあ……」、文中II——「わたし
が教師? 勉強嫌いなのに? やっぱないか」とありますが、IIの
ときの「凜」の心情はどのようなものであったと考えられますか。
Iのときと比較して、書きなさい。

(我孫子武丸『残心 凜の弦音』による。)

(注) 吉村先生……弓道部の顧問。

射法訓、礼記射義……弓道の心得を示したもの。

棚橋先生……かつての弓道の指導者。

OG……女子の卒業生のこと。

三 次の漢詩を読んで、後の(一)～(三)の問いに答えなさい。

著作権の関係により本文は省略します。

『全唐詩』による。

(注) 山亭……山の中にある別荘。

楼台……高い建物。

池塘……池。

水精……水晶。

滿架……棚いっぱい。

薔薇……バラ。

一院……中庭全体。

(一) この漢詩の形式として最も適切なものを、次のア～エから選びなさい。

ア 五言絶句 イ 五言律詩

ウ 七言絶句 エ 七言律詩

(二) 「入池塘」に、書き下し文の読み方になるように返り点を

書きなさい。

(三) 次の会話文は、この漢詩について、東野さんたちが話し合ったときの会話の一部です。これを読んで、後の①、②の問いに答えなさい。

東野さん この漢詩を鑑賞するに当たって、どこに着目して考えるのがいいだろう。

西川さん 第四句の「滿架の薔薇一院香し」というのがポイントじゃないかな。

南田さん この句は、棚いっぱい咲くバラの花の香りが中庭全体に広がっている様子を表しているよね。 [] ことで、香りが漂ってきたんだろうね。

北山さん うん。私は、この漢詩を読んで、水晶の簾が動いて [] と表現されている、その順番がおもしろいと思ったよ。

東野さん ああ、確かにそうだね。あ、これって、作者が感じた順番になっっているんじゃないかな。まず簾の動きに気づいて、最終的に香りへと移っている感じがするよ。なるほど。後半の二句は確かにそうだね。それじゃあ、前半の二句はどうだろう。第一句にある「陰」も

第二句にある「影」も、ともに「かげ」と読んでいるのがおもしろいな。第二句の意味はというと…、そうか、この句は [I] を表しているんだね。

西川さん 分かった。この漢詩の前半は目に映った情景が描かれているだけけれど、後半は [II]、作者の感じ方にあわせて状況をイメージできることが味わいなんだと思うな。

① 会話文中 に共通して当てはまる言葉は何かを考えて、書きなさい。

② 会話文中 I、 II に当てはまる言葉として最も適切なものを、それぞれ後のア～エから選びなさい。

I

ア 池の中にも楼台が続いている様子

イ 楼台が池の水面に映っている様子

ウ 楼台の影が池を暗く覆っている様子

エ 池で反射した光が楼台に当たっている様子

II

ア 動きが生まれていて

イ 感情の高まりがあつて

ウ 音の重なりが描かれていて

エ 時の流れの速さが表現されていて

四 次の文章を読んで、後の(一)～(四)の問いに答えなさい。

著作権の関係により本文は省略します。

(一) 文中——「おさへがたく」を現代仮名遣いで書きなさい。

(二) 文中A——「みなとりてけり」とはどのような様子を述べていますか。最も適切なものを、次のア～エから選びなさい。

ア 博雅の三位の家族が途方に暮れる様子。

イ 博雅の三位がおそろおそろ外に出てきた様子。

ウ 盗人が仲間を連れて博雅の三位の家に戻ってきた様子。

エ 盗人が博雅の三位の家の物を持ってしまった様子。

(三) 文中B——「みな置きて出でにけり」とありますが、盗人が何もかも置いて出て行ったのはどうしてですか。最も適切なものを、次のア～エから選びなさい。

ア 仲間から説明を聞いて、箆簞以外は価値がないと理解したため。

イ 博雅の三位の嘆きを耳にして、思いやりが大切だと悟ったため。

ウ 箆簞と盗んだ物を交換しようと、博雅の三位から提案されたため。

エ 博雅の三位の美しい箆簞の音を聞いて、悪い行いを反省したため。

(四) 文中C——「優なる心」とありますが、(一)～(三)での「優なる心」とはどのような心だと考えられますか。最も適切なものを、次のア～エから選びなさい。

ア 単純で表裏のない心。

イ 優しさにあふれた心。

ウ 芸術の価値が分かる心。

エ 他人に認められたいと思う心。

『古今著聞集』による。

(注) 博雅の三位……源博雅みなもと の ひろまさのことで、平安時代中期の人。

三品……三位のこと。

板敷……板の間。

箆簞……雅楽用の管楽器。

厨子……両扉のついた棚。

五 次の(一)～(三)の問いに答えなさい。

(一) 次の①～④の——の平仮名の部分を漢字で書きなさい。

① ろうそくがもえる。

② 山のいただきに着く。

③ はちくの勢いで進む。

④ 進行にししよをきたす。

(二) 次の①～④の——の漢字の読みを平仮名で書きなさい。

① 名残を惜しむ。

② 襟を正して臨む。

③ 法令を遵守する。

④ 作品の巧拙は問わない。

(三) 次の漢字は、行書で書いたものです。この漢字と部首が同じである

漢字として最も適切なものを、後のア～エから選びなさい。

祖

ア 独 イ 礼 ウ 秒 エ 補

六 春香さんたちは、国語の授業中に、辞書と言葉の意味について意見

交換をしています。次の会話文は、そのときの会話の一部で、資料Ⅰ、資料Ⅱは意見交換をする際に用いたものです。これらを読んで、後の(一)～(三)の問いに答えなさい。

春香さん 昨日の委員会の報告を先生にしたときに、「ちょっと煮詰まった感じですよ。」と言ったら、先生に「それはよかった。」と言われたよ。「煮詰まる」って、□という意味じゃないってことかな。

夏世さん 辞書で調べてみようよ。えーと、私の辞書(資料Ⅰの「辞書A」)には、三つ意味が載っているみたいだけれど…。

秋斗さん 僕の辞書(資料Ⅰの「辞書B」)には、二つしか意味が載っていないよ。それに、「注意」もあって、「俗用で、本来は誤り」と書かれているよ。

冬輝さん 「俗用」ってことは、ある程度は一般的ってことだよ。でも、この辞書によると、本来は誤りなのか…。

夏世さん さっき、インターネットでちょっと調べてみたら、こんなデータ(資料Ⅱ)があったよ。

秋斗さん へえ、おもしろいね。こんなふう捉え方に違いがあるってことか。少し前の資料だけど、今でも同じような傾向があるのかもしれないな。

春香さん そうだね。なにしろ、私が使った意味を載せている辞書は、全く逆の意味を両方とも載せているわけだしね。

冬輝さん 辞書によって書かれ方が異なっていると、ちょっと困る気がするな。どちらかはつきりしてほしいよ。

夏世さん 確かにそうかも。でも、私は、辞書にもそれぞれ違いがあつていいような気がするな。最近の電子辞書には、複数の辞書が入っているものもあるし、インターネットとかでさらに調べたりすることもできるよね。

資料Ⅰ

「辞書A」

- ① 煮えて水分がなくなる。
- ② 議論や考えなどが出つくして結論を出す段階になる。
- ③ 転じて、議論や考えなどがこれ以上発展せず、行き詰まる。

「辞書B」

- ① 煮えて水分がなくなる。
 - ② 議論や検討が十分になされて、結論の出る段階になる。
- 【例】議論が煮詰まる。
- 【注意】近年、「議論が行き詰まる」の意で使うのは俗用で、本来は誤り。

資料Ⅱ

「煮詰まる」の意味は、(ア)と(イ)のどちらだと思うか

	平成19年 (2007)	平成25年 (2013)
(ア) 結論が出せない状態になること	37.3%	40.0%
(イ) 結論の出る状態になること	56.7%	51.8%
(ウ) (ア)と(イ)の両方	1.2%	3.6%
(エ) (ア)や(イ)とは全く別の意味	0.2%	1.4%
(オ) 分からない	4.6%	3.2%

平成25年度「国語に関する世論調査」(文化庁)により作成

(一) 会話文中□に当てはまる言葉を、資料Ⅰから五字で抜き出して書きなさい。

(二) 会話文中——について、秋斗さんのこの発言は、資料Ⅱ中のどういったことについて言っていると考えられますか。最も適切なものを、次のア～エから選びなさい。

ア 平成19年も平成25年も、全体に占める(ウ)の割合や(エ)の割合が低いということ。

イ 六年の間に、全体に占める(エ)の割合が増えた一方、(オ)の割合は減ったということ。

ウ 六年の間に、全体に占める(ウ)の割合は増えたが、逆に(イ)の意味で捉える人の割合は減ったということ。

エ 平成19年も平成25年も、(ア)の意味で捉える人と(イ)の意味で捉える人が、それぞれ一定の割合でいるということ。

(三) 会話文中——について、資料Ⅰの「辞書A」、「辞書B」のように、記載の内容が異なっている辞書があることについてあなたはどのように考えますか。あなたの考えを、百四十文字以上、百八十文字以内で書きなさい。